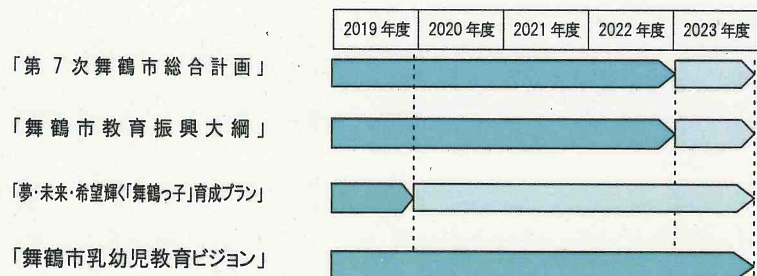
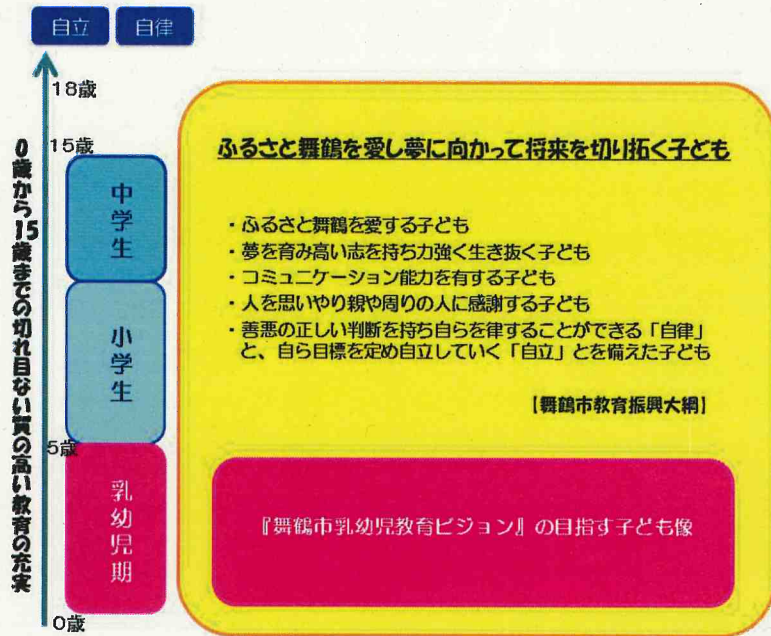


# 舞鶴市乳幼児教育ビジョンの概要

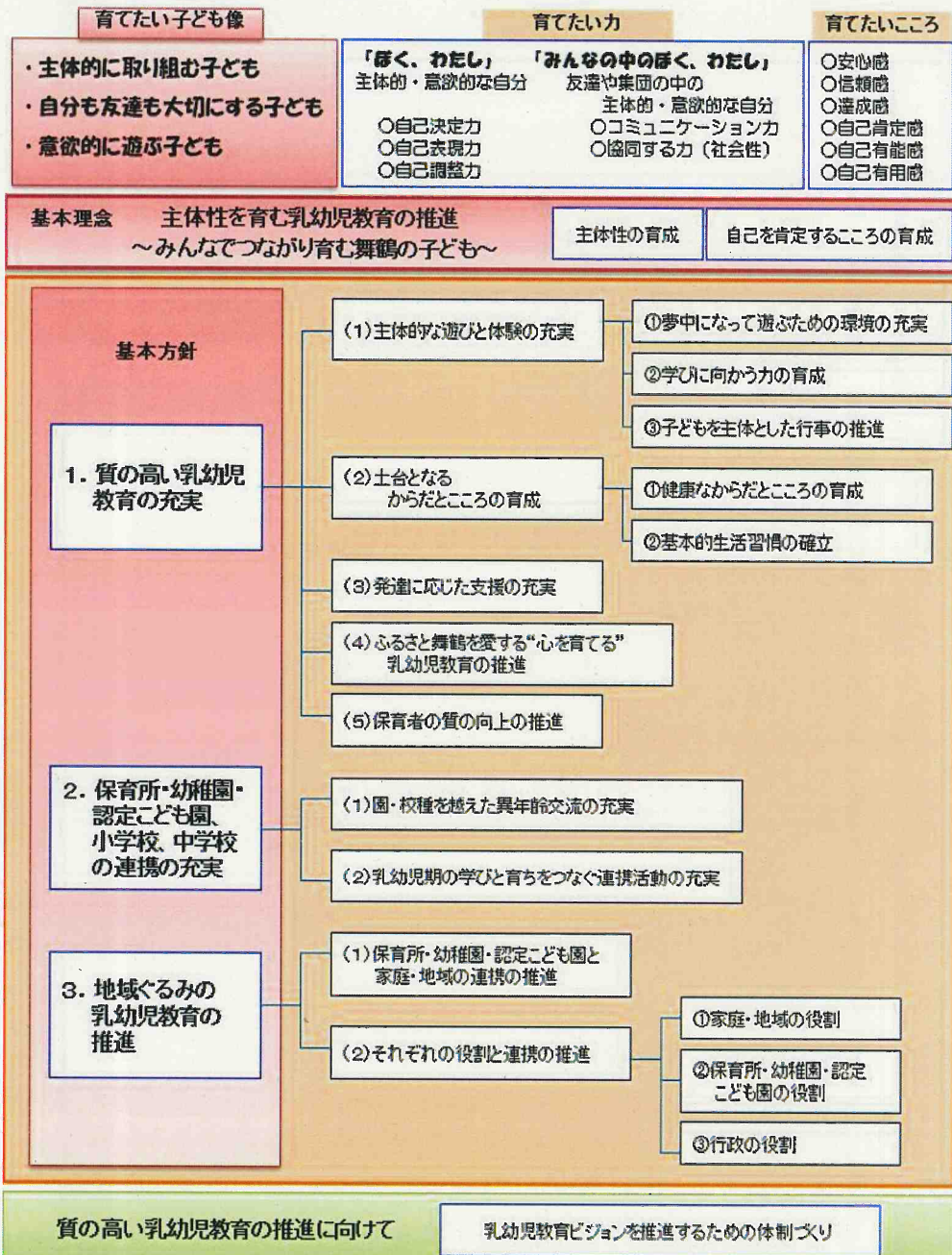
## ビジョン策定の趣旨

乳幼児期の子どもの、学び・育ちの特性を踏まえ、乳幼児期の終わりまでに育てほしい子どもの姿、乳幼児期に大切にしたいことを、市民全体で共有し、子育ての基本である家庭はもとより、地域・保育所・幼稚園・学校・行政等それぞれの役割を認識したうえで、連携しながら取り組みを進めていくことが重要となります。このため、舞鶴市乳幼児教育ビジョンを策定し、これに基づいて様々な施策を展開していくものであり、特に、保育所・幼稚園・認定こども園は、乳幼児教育の専門職を擁する施設として重要な役割を担っていることから、質の高い乳幼児教育の実践をはじめ、園に通っていない子どもも含めた家庭・地域の支援・連携、学校への学び・育ちの連携等について、共有すべき基本認識を明確化したものです。



# 舞鶴市乳幼児教育ビジョン体系図

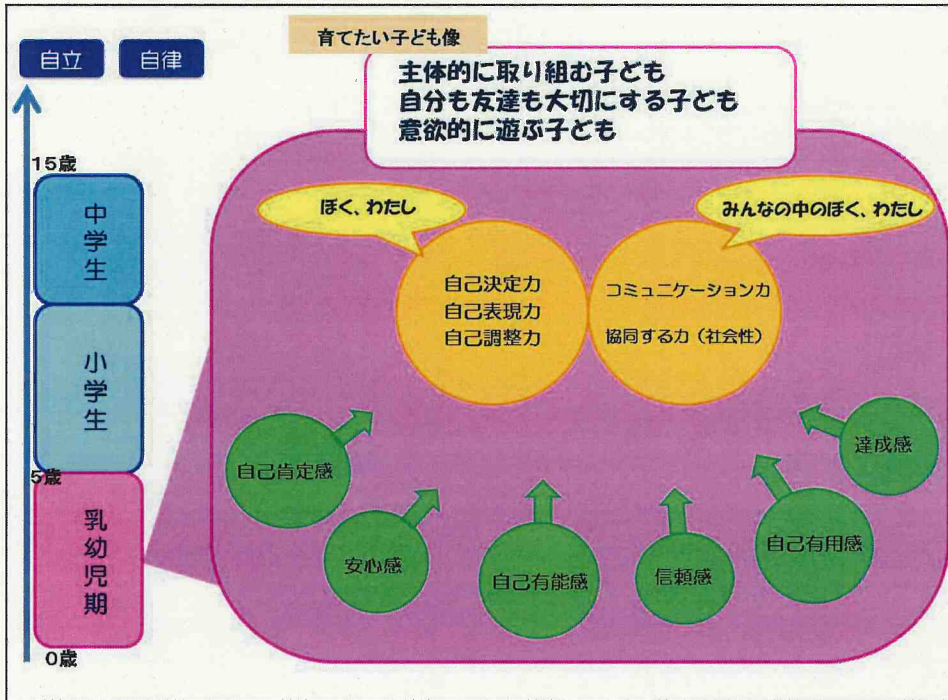
## 舞鶴市乳幼児教育ビジョン体系図



# 育てたい子ども像と基本理念

## 1 育てたい子ども像と育てたい力、育てたいところ

本市では、「主体的に取り組む子ども」、「自分も友達も大切にすること」、「意欲的に遊ぶ子ども」の3つを育てたい子ども像として掲げ、自己決定力、自己調整力、コミュニケーション力等の育てたい力と安心感、信頼感、自己肯定感等の育てたいところを育み、将来、自分で生きていく、自分で考えて行動していくという二つの「自立・自律」を備えた子どもを育成します。



### ① 主体的に取り組む子ども

自分で考え、判断し、行動する「自己決定力」、自分の思いや考えを伝える「自己表現力」、集中し、根気強く取り組み、工夫し、見通しを持つ「自己調整力」を育み、自らが主体となり、遊びや生活等すべてにおいて主体的に取り組む子どもを育成します。

「ぼく、わたし」とは…主体的・意欲的な自分

#### 【育てたい力】

- ◆ 自分で考え、判断し、行動する力「自己決定力」
- ◆ 自分の思いや考えを伝える力「自己表現力」
- ◆ 集中し、根気強く取り組み、考え工夫し、見通しを持つ力「自己調整力」

### ② 自分も友達も大切にすること

自らの主体性を尊重され大切にされた子どもは、自分も大切にし、友達の主体性も尊重し、大切にすることができます。友達との遊びや体験の中で、人と関わりながら、あいさつをする、感謝や謝罪等の自分の思いや考えを伝える、相手の思いを聞く、話し合うという「コミュニケーション力」、ルールや約束を守ろうとする(規範意識)、認め合う、友達を思いやる、自分の気持ちをコントロールしようとする「協同する力(社会性)」を育みます。

コミュニケーション力や協同する力を育み、自分も友達も大切にすること子どもを育成します。

「みんなの中のぼく、わたし」とは…友達や集団の中の主体的・意欲的な自分

#### 【育てたい力】

- ◆ あいさつをする、感謝や謝罪等の自分の思いや考えを伝える、相手の思いを聞く、話し合うという「コミュニケーション力」
- ◆ ルールや約束を守ろうとする(規範意識)、認め合う、友達を思いやる、自分の気持ちをコントロールしようとする「協同する力(社会性)」

「みんなの中のぼく、わたし」が、共通の目的に向けて友達と力をあわせながら、協同的に遊ぶ体験を通して、学びに向かう力(意欲、集中力、持続力等)を育みます。

### ③ 意欲的に遊ぶ子ども

これら「ぼく、わたし」、「みんなの中のぼく、わたし」は行きつ戻りつ、相互作用し合いながら育っていきます。興味や関心を持って、様々な物や人、自然事象等(環境)と関わりながら、意欲的に遊ぶ子どもを育成します。

そして、育てたい子ども像、育てたい力を育むためには、安心できる居場所で信頼できる人と「安心感」「信頼感」を育てることが大切です。また、やりたいことをやる中で「達成感」を感じ、自分のことが好きと感じる「自己肯定感」、自分もできる、やればできると感じる「自己有能感」、自分が人の役に立った、人から認められたと感じる「自己有用感」を育むことが大切です。

「ぼく、わたし」「みんなの中のぼく、わたし」の力を育む基盤となるところを育てます。

#### 【育てたいところ】

- ◆ 安心できる居場所で「安心感」を抱くこと
- ◆ 信頼できる人と過ごす中で「信頼感」を持つこと
- ◆ 自分のやりたいことをやる中で「達成感」を感じる
- ◆ 自分のことが好きと感じる「自己肯定感」
- ◆ 自分もできる、やればできると感じる「自己有能感」
- ◆ 自分が人の役に立った、人から認められたと感じる「自己有用感」

## 主体性を育む乳幼児教育の推進

～みんなでつながり育む舞鶴の子ども～

「育てたい子ども像、力、こころ」で示した姿を実現するために、家庭・地域・保育所・幼稚園・認定こども園・小学校・中学校・行政等、子どもを取り巻く全員が認識を共有し、「主体性を育む乳幼児教育」を推進します。

### (1) 主体性の育成

#### ① 自己決定力、自己表現力、自己調整力の育成のために大切にしたい関わり

子どもをたった一人のかけがえのない存在としてありのままを受け止め、よいところを見つけ、ほめることが大切です。一人ひとり違っていい、いろんな子がいて楽しいと感じられるよう、子どもへの理解を深め、個々の個性やよいところ、得意なところを伸ばすように関わります。

子どもは、興味や関心を持つと「やりたい」「やってみたい」と自分から関わろうとします。その気持ちを尊重することが意欲を育てます。また、自分で考えて行動するためには、周囲の大人の指示や命令の言葉で行動するのではなく、子ども自身が気付けるような関わりや声かけが必要です。

やりたい気持ちを尊重し、意欲を育て、自分で行動するために、周囲の大人は、言い過ぎない、答えを言わず見守る、自分で気付けるようなヒントを与えるなど、主体性を尊重した関わりを目指します。

また、子どもは、年上の人に対する憧れと信頼の気持ちを持って大人を見ています。「おはよう」等のあいさつ、「ありがとう」の感謝の気持ち、「ごめんね」の謝罪の気持ちは大人がモデルとなって、子どもに示し、大人自身が、ルールや約束、マナーを守ることを目指します。

#### ② コミュニケーション力、協同する力(社会性)の育成のために大切にしたい関わり

自分の思いや考えを話すためには、周囲の大人が、子どもの言葉に耳を傾け、応答的にやりとりすることが大切です。伝えたい人、聞いてくれる人、応えてくれる人がいるから、子どもは話そうとします。伝えたい気持ちはコミュニケーション力の土台でもあります。また、相手の思いを聞くということは、自分が聞いてもらったという経験や体験がなければ、難しいことです。

自分の思いや考えを話したり、相手の思いを聞いたり、話し合いの機会を持ち、保育所・幼稚園・認定こども園での友達同士や集団の中で、お互いが認め合うよう、一人ひとりのよいところ得意なこと、発見したことや行動したことを周りに発信することにより、一人ひとりが輝く場面をつくっていきます。

また、集団生活の中でのルールや約束があることは理解していても、適応できるかどうかは年齢・発達や個人差によることもあります。大人に決められたルールや約束よりも、自分たちで話し合っ

て決めた約束の方が主体的に意識もでき、より守ろうとします。

ルールや約束を守ろうという気持ち(規範意識)を育てるために、ルールや約束を守ることは気持ちがいい、友達との遊びもより楽しくなるという経験や、どうしたら守れるかを、みんなで話し合う機会を持ちます。

加えて、人に強要されて我慢するのではなく、自分から気持ちをコントロールする経験が必要です。集団の中でのけんかやトラブルはチャンスととらえ、相手の気持ちに気づき、よいこと悪いことを判断する機会にし、自分の気持ちに折り合いをつけ、我慢をしなければならない経験も大切にします。

### (2) 自己を肯定するこころの育成

#### ① 自己肯定感、自己有能感、自己有用感、達成感の育成のために大切にしたい関わり

「自己肯定感」を高めるためには、一人ひとりのよいところを見つけ、ほめることが大切です。また、ほめられることで、「自分もできる、やればできる」という「自己有能感」を感じ、自分に自信を持つことにつながります。

やりたいことが自分なりにうまくいき、満足でき、周囲の人に認められることで「達成感」が得られます。さらに、「人の役に立つ自分、人に認められる自分」という「自己有用感」を感じることができま

す。この「誰かのために…」という気持ちは、将来、地域やふるさとのために役立ちたいという気持ちにもつながります。

#### ② 安心感・信頼感と愛着形成の確立

愛着とは、人と人との間で形成され、相手と一緒にいることを望み、一緒にいることで大きな安心感、満足感を感じられる関係と言われています。愛着には、自分が働きかけると相手が応えてくれ、心地よさを与えてくれるという「相互的な関係」と、自分は周囲に温かく受け入れられているという「情緒的満足感」、だっこやスキンシップ等の「身体接触の関係」という要素が不可欠です。

子どもの心の健全な育成のためには適切な「愛着」形成が重要であり、将来にわたる人への信頼感の出発点となります。

周囲の大人との信頼関係を深めるためには、信頼されていることが子どもに感じられるように見守ることや、「失敗しても大丈夫」「間違えてもいいんだよ」とありのままを受け止めることにより、安心して何でも言える雰囲気づくりに努めるなど、(1)「主体性の育成」で示した関わりを大切にする必要があります。

家庭では、一緒に遊ぶ、子どもとの会話を心がける、ほめる、時間は短くてもふれあう機会(手をつないで歩く、抱っこをする等)を持つなど、各家庭に合ったつながりを大切に、安心・安定できる居場所となることを目指します。また、保育所・幼稚園・認定こども園では、一人ひとりの子どもの思いや言葉を受け止め、保育者との愛着・信頼関係を築き、子どもが安心して過ごせる居場所となることを目指します。

## 年齢ごとの育ちの視点

ここでは、育てたい子ども像と基本理念の内容を、年齢発達に応じて記します。子どもの発達には個人差があります。年齢の表記は基準ではなくめやすであり、内容は一定の方向性を示すものです。

0歳頃	<p><b>【人として生きていく土台づくり】</b></p> <p>「おなかがすいた」「うれしい」「かかわってほしい」、という思いを相手に伝えようと自分の意思で、泣いたり、笑ったり、声を出したりする時期。</p> <p>周囲の大人は、その思いに応答的に関わり、だっこ等のスキンシップを通じて愛着を形成し、安心できる環境の中で眠り、食べ、遊ぶという心地よい生活リズムを大切にします。</p>
6か月～2歳頃	<p><b>【主体的に生きていく土台づくり】</b></p> <p>6か月～1歳半…座る、這う、立つ、歩くといった運動機能が発達する時期。周りのものや人への興味や関心が広がり、自ら「さわってみたい」「関わりたい」という意欲が芽生え、探索活動が活発になり、好奇心旺盛な時期。</p> <p>1歳半～2歳頃…なんでも「イヤイヤ」「自分で」という自我の芽生えの時期。</p> <p>できないからといって止めるよりも、子どもの意思を尊重し、見守りながら、困った時には戻れる安心できる居場所（人）となることが大切です。</p>
2歳～3歳頃	<p>自我の芽生えから、「自分でやりたい」「聞いてほしい」「見てほしい」と、自己を主張する時期でもあり、なんでもやってみたい最も意欲的な時期。それぞれが、自分の好きな遊びを見つけ、集中して遊んでいるが、友達の遊びは意識している時期。</p> <p>子どもの意欲や主体性を尊重し、自分で選ぶ、決める、自分の思いを伝えるという経験することが大切です。また、言葉を獲得し、語彙を増やしていくこの時期には、周囲の大人が子どもの思いや感動したことを言葉で表現し、子どもとの応答的なやりとりをすることが必要です。</p>
3歳～4歳頃	<p><b>【仲間と共に生きていく土台づくり】</b></p> <p>今までの大人との密着した関係から、自分とは違う他者（友達）に関心が向くようになり、「友達と同じことがしたい」という気持ちが芽生える時期。</p> <p>友達とイメージを広げながら、ごっこ遊びを楽しみ、身近な自然（水、土、砂、草花、虫など）に関わりながら、遊ぶことが大切です。</p>
4歳～5歳頃	<p>基本的な生活習慣も身につけ、今までの経験を生かして、自分なりに考えたり、創意工夫したりする思考力が育つ時期。</p> <p>仲の良い友達との関係の中で、自分の思いを話したり、相手の思いを聞いたり、折り合いをつけたりする経験が大切です。友達とイメージを共有しながら、想像力を広げる遊びが大切です。一人ひとりの個性を認め、見守るように関わる必要があります。就学前にはひとつの目的に向かって、集団の中で友達と話し合い、協力し合う、協同的に取り組む体験が大切です。</p>

子どもに対する関わりの視点			
家	庭	保育所・幼稚園・認定こども園	地 域
愛情やしつけなどを通して乳幼児の成長の最も基礎となる心身の基盤を形成する場		家庭での成長を受け、集団生活を通して、家庭では体験できない社会・文化・自然などに触れ、保育者等に支えられながら、乳幼児期なりの豊かさに出会う場	様々な人々との交流や身近な自然との触れ合いなどを通して豊かな体験が得られる場
0歳頃	心地よさが感じられる、信頼していることが感じられる安心・安定できる居場所になる	大人との愛着・信頼関係の形成、安心・安定できる居場所になる	温かく見守り、あいさつなどの声かけ・相談しやすい関係づくりなど、親子をサポートする
6か月～2歳頃	だっこ等のスキンシップを通して愛着形成、あたたかく受け入れ、信頼関係を深める	子どもの興味・関心を起点として、環境（人・もの）や自然と関わりながら遊ぶ 体を動かして遊ぶ	地域行事（祭り等）への参加を通じた親子と地域の住民との世代を越えた交流をする
2歳～3歳頃	早寝早起き、食事等の基本的な生活習慣を確立する 身辺自立をすすめる 体を動かして遊ぶ機会を持つ	一緒に遊ぶ、だっこ等のふれあう機会を持つ	子どもが地域の自然、文化等に触れる体験の機会を提供する
3歳～4歳頃	一緒に遊ぶ、だっこ等のふれあう機会を持つ	子どもの思いや意思を尊重し、見守る、ほめる、認める	友達と話し合い、協同的に取り組む体験をする
4歳～5歳頃	一緒に遊ぶ、だっこ等のふれあう機会を持つ	子どもの思いや意思を尊重し、見守る、ほめる、認める	友達と話し合い、協同的に取り組む体験をする